

栗原市の荒戸沢ダム崩落の現場



宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた
平川 新

内陸地図のあつた日

震源地に近い栗原市や大崎市を中心とした地域では震度6強。被災家屋は約2600戸でした。犠牲者は23人、負傷者は426人でした。死者のうち千石流や落石の犠牲になった人は11人。山間部で発生した土砂災害の犠牲者が多かったのです。

栗原市荒砥沢ダムの大規模地すべりは頻繁に報道されましたので、記憶されている方も多いと思います。

ました。

⑫ 岩手・宮城内陸地震と運動

A close-up shot of a red bird, possibly a cardinal, perched on a dark, textured metal railing. The background is slightly blurred, showing some foliage and a path.

運命の日

背中がソクソクして、足ががくがくと震えました。体がこんな反応をしたのは初めてのことでした。じつは私も、その駒の湯に泊まっていたかもしれませんからです。

新幹線のくりと高岡駅で、ご一緒できずに残念です、うらやましいなあ、また今度誘ってください、といつて別れました。その駒の湯には、市役所の担当者が車で送つていきました。

会がなかつたとしたら、温泉好きの私はもちろん参加していたでしょう。電話を受けて体が震えたのは、そのためでした。思い出すほどに、運命ということが感じています。

翌日から数ヶ月かけて、栗原市の栗駒・花山地区、大崎市の鳴子、鬼首地区などの被災状況調査とレスキュー活動を実施したくさんの方々の古文書を保管することができました。



東北大災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26～31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料研究。全學。令和4年4月に3代目のサン・ファン館館長に就任した。

A photograph showing a group of six people in a meeting room. Five individuals are seated around a long wooden conference table, while one person stands near the window on the right. The room has large windows on the right side, and the left wall is covered with numerous black-and-white photographs arranged in a grid. The people are dressed in professional attire, including suits and blouses. There are papers and coffee cups on the table.

2008年6月13日のくりでん遺産の保存活用検討委員会。左端が岸由一郎さん、右から2人目が麦屋弥生さん。中央が筆者